

生き生き

NO. 76 平成21年11月号 岡崎市現職研修生活科広報部発行

日々成長を

生活科部長 田中 忠康

「赤ちゃんができたよ」⇒「とげがいたいよ」⇒「あおくさいにおいだよ」
⇒「〇〇ちゃんちがってぼくの地面の近くのキュウリは曲がっちゃったよ」
⇒「キュウリが食べられるようになったよ」
⇒「家でも食べてみよう」

「ぼっか会のおじいちゃん・おばあちゃんに昔の遊びを教えてもらったよ」
⇒「おじいちゃんはコマ回し、竹馬がとても上手だよ」
⇒「ぼくもあんなふうにやれるようになりたいな」
⇒「おじいちゃんは竹が前にいっていたよ」
⇒「敬老会で技を発表するために、家でも、もうれんしゅうしたよ」
⇒「れんしゅうでは失敗したけど、今日はみんな大成功だったよ」

生活科で、野菜を栽培した1年生は、ぼっか会の方に指導を受けながら、世話をし観察を続けてきた。その間に、諸感覚を働かせいろいろな発見をしていった。そして、自分の野菜であるという愛着をもった。家でも給食でも食べられなかったキュウリが、試食会では「おいしい」と言って食べることができた。そして、家でも食べてみよう挑戦する気持ちになっていった。また、ぼっか会の人との交流で昔の遊びを教えてもらった2年生は、お礼にそれを敬老会で披露しようと考えた。家で猛特訓し、当日は成果を発表した。練習では班全員が成功することはなかったが、敬老者の喜ぶ顔を見るとともに見事全員が成功したことで、感謝の気持ちと達成感に浸ることができた。それが、今後の活動への推進力になっていくと期待できる。

生活科に限らず、「生きる力」を育てることを目標に教育活動を推進するのであるが、生活科では、自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分ができるようになったことが分かり、その人たちに感謝の気持ちを持ち、意欲的に生活できるようにすること<内容9>が、自立への基礎を養うことにつながっていく重要なポイントであると考えられる。